

古楽盤を聴く(10)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(10)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ハイドン、古典派のアナログ盤を聴き直してきました。今回も、時代をさかのぼって古楽盤を聴いてみることにしました。

2. 古典派のアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、古楽のアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次の古楽盤を聴いていきます

yPartix 80935

ルイ・クーブラン SUIT EN UT MAJEUR

Dominique Ferran (クラブサン)

Jacques de Giafferri 指揮 Ensemble Instrumental

ERATO RE-1077-RE

ルイ・クーブラン トリオソナタ 《ル・パルナスあるいはコレルリ讃》

トリオソナタ 《神聖ローマ帝国の人》

トリオソナタ 《リュリ讃》

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内管弦楽団

ASTREE AS31

ルイ・クーブラン VINGTIEME ORDRE

VINGT-UNIME ORDRE

VINGT-DEUXIEME ORDRE

BLANDINE VELETT

3. 古楽のアナログ盤の試聴結果

yPartix 盤は、ZANDEN のリストにもありませんし、過去の経験もありませんので、RIAA、N、第4時定数 High から聴いていきます。全般に音が散漫なので、位相反転しますと音が凝縮します。RIAA から、TELDEC、EMI、Columbia、DECCA と替えてみたところ、DECCA でクラブサンの音をもっともシャープになり、かつ余韻も明瞭です。第4時定数を High から Mid、Low にしますと、表現がくどくなりましたので High に戻し、DECCA、R、第4時定数 High で落ち着きました。盤の由来も不明な、フランス語のクレジットですが、ルイ14世時代の音楽集ということで、クーブランの作品ですが、非常に明晰で、眼前でクラブサンが演奏されているかのようです。

ERATO 盤は、RIAA、R、第4時定数 Mid で聴いていきます。3曲ともトリオソナタの形式のアンサンブルの演奏です。ルイ14世時代の文化の雰囲気漂わせる優雅な音楽でピヤール指揮ピヤール室内管弦楽団が、弦と木管の透明感のある音で切れの良い演奏を聴かせてくれます。

ASTREE 盤は、ZANDEN のリストにもありませんし、過去の経験もありませんが、harmonia mundi France のラベルが貼られていますので、それを手掛かりに、RIAA N、第4時定数 Mid で聴いてみましたが、ぴったり合っているようです。チェンバロの優雅な演奏が、眼前で行われているような明晰で透明度の高い音です。これもルイ14世時代の宮廷文化の雰囲気を感じさせてくれるような曲です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタ

ティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、ルイ 14 世時代の優雅な演奏を想像させてくれるように、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上